

為替週間展望 = ドル円は堅調な推移も、高値圏では伸び悩みか

[5月22日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月15日～5月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	135.70	138.75(18)	135.59(15)	138.11	+2.41
ユーロ・ドル	1.0850	1.0905(16)	1.0760(19)	1.0785	-0.0064

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	30,808.35	+1420.05	日本10年債利回り	0.401	+0.010
ダウ平均株価	33,535.91	+235.29	米10年債利回り	3.646	+0.183

< 来週の主要経済統計等 >

- 22日 英5月ライトムーブ住宅価格
日本3月機械受注
中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート 1年、5年)
- 23日 独5月製造業PMI速報値、独5月非製造業PMI速報値
ユーロ圏3月経常収支
ユーロ圏5月製造業PMI速報値、ユーロ圏5月非製造業PMI速報値
英5月製造業PMI速報値、英5月非製造業PMI速報値
カナダ4月鉱工業製品価格
米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値
米4月新築住宅販売件数
- 24日 NZ第1四半期小売売上高
NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利
英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数
独5月ifo景況感指数
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (5月2～3日開催分)
- 25日 独第1四半期GDP確報値
米第1四半期GDP改定値、米新規失業保険申請件数
米4月中古住宅販売成約指数
- 26日 豪4月小売売上高
英4月小売売上高
米4月個人所得・支出、米4月耐久財受注速報値
米4月個人消費支出 (PCE) デフレーター
米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】6月のFOMCでは政策金利据え置きとの見方が広がり、ドルは上値の重い展開が見込まれる。ただ、FRBによる利上げが続いてきた割には、米国経済は堅調で、利上げ停止が視野に入ってきたものの、ドル売り一辺倒とはなりにくい。米4月小売売上高などの一連の米経済指標が堅調ならドル買いに傾く局面も見られそう、ドル円はレンジ内での推移になるとした。

【ドル円は売り一巡後に上昇に転じる】

10日発表の4月の米消費者物価指数 (CPI) や11日発表の4月の米生産者物価指数 (PPI) が予想を下回る伸びとなったことで、ドル売りの動きにつながった。また、11日には米地銀パックウェスト・バンコブが預金流出を公表したことで、米地銀の経営危機に関する警戒感が強まる形でドル売りとなり、ドル円は133.70台まで下落した。

その水準まで下落した後は、ドル円は上昇に転じている。12日発表の5月のミシガン大学消費者信頼感指数において、1年先と5年先のインフレ見通しがいずれも予想を上回った。根強いインフレ警戒感がドル買いにつながった。16日発表の4月の米小売売上高が底堅い動きとなっており、4月の鉱工業生産やNAHB住宅価格指数が市場予想を上回ってドル買い要因となった。また、日経平均の上昇も円売りの一因となっている。

米債務上限問題の交渉は継続しているものの、楽観的な見方が広がりつつある。17日にバイデン米大統領が「協議が合意に達すると確認している。米国はデフォルト（債務不履行）しない」と述べた。また、共和党が求める歳出削減については交渉に応じる意向を示した。また、「21日に記者会見を開く予定」と述べた。

共和党のマッカーシー下院議長も「21日までの合意は可能」との見解を示した。マッカーシー下院議長は18日に「債務上限問題で近いうちに与野党が合意して、来週にも下院で差決する見通し」と述べ、「合意への道筋が見えてきた」と語った。

18日にはドル円は138円台後半まで上昇した。5月のフィラデルフィア連銀指数は前回から改善した上、市場予想も上回った。前週分の新規失業保険申請件数は前回から減少した。さらにダラス連銀のローガン総裁が6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ見送りに関して「現在のデータは利上げ停止を正当化しない」と述べたことなどもあり、米長期金利が上昇するとともにドル買いの動きが広がった。

米債務上限問題が合意に至るとの楽観的な見方や米連邦準備制度理事会（FRB）のこれまでの大幅な利上げを受けても米経済指標が堅調さを示していることなどから、ドル円は堅調な推移が見込まれる。ただ、米債務上限問題で合意した場合は材料出尽くし感から、いったん上昇がストップして上値を抑えられて、高値圏では伸び悩みを見せる可能性も出てきそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、135.00～141.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、22日に日本3月機械受注、23日に米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値、米4月新築住宅販売件数、25日に米第1四半期GDP改定値、米新規失業保険申請件数、米4月中古住宅販売契約指数、26日に米4月個人所得・支出、米4月耐久財受注速報値、米4月個人消費支出（PCE）デフレーター、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは下落基調で推移か】

ユーロドルは軟調な流れが継続している。米経済指標が堅調なことや米債務上限問題への楽観的な見方から米長期金利が上昇傾向にあり、ユーロ売りドル買いの流れにつながっている。16日に独5月ZEW景況感指数が予想を下回り、ドイツの景気の先行き不透明感などもユーロの重石となっている。

ユーロドルは1.1100ドルの手前から値を崩してきており、軟調な流れが継続している。1.0800ドルを割り込むなど高値からかなり下げが続いてきたが、下げ止まりを見せていない。上値の重い展開が継続するとみられ、下落基調で推移することになりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.0900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、22日に英5月ライトムーブ住宅価格、中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年、5年）、23日に独5月製造業・サービス業PMI速報値、ユーロ圏3月経常収支、ユーロ圏5月製造業・サービス業PMI速報値、英5月製造業・サービス業PMI速報値、24日にNZ第1四半期小売売上高、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、独5月IFO景況感指数、25日に独第1四半期GDP確報値、26日に豪4月小売売上高、英4月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。